

【北杜市】 校務 DX 計画

（１）自己点検を踏まえ、チェックリストに示されている課題や、その解決策

北杜市では校務支援システムを山梨県及び県内自治体の共同調達で導入し、県内で統一（標準化）した業務運用、およびセキュリティ対策を行うことで、教職員の異動の負担を軽減した環境を構築している。また、教職員と保護者間、児童生徒および教育委員会との情報伝達はグループウェアやメール、Web フォーム、および情報共有ツールを用いて電子化し、電話や紙でのやり取りの低減を図っている。

デジタル機器の有効活用により教職員の業務効率向上に一定の成果がでてきているが、ファイル中継の手間や、職員室でしかシステムが使用できないこと、いまだ軽微な業務でありながら紙での運用がされている業務がある点など、環境改善が望まれているものがある。また、システムに登録された成績等のデータの推移や統計による可視化をすることで、現状把握や今後の教育改善に有効活用できる仕組みが整備されていない。

以上の課題は校務支援システムそのものの見直しや、システム見直しによるインフラ環境の再整備が必要となる。

（２）次世代の校務システムの導入に向けた検討について

前述（１）により、今後さらなる教職員の業務効率向上およびデータ利活用による児童生徒一人一人に合わせたきめ細かな指導が実施できる環境を整備するため以下を推進する。

○次期校務支援システムの導入に向けた取組

次期校務支援システムは県及び県内自治体の共同調達により、令和 8 年 4 月より更改予定である。その際、教職員の業務負担やデータ利活用が可能なシステム導入に向けて仕様の検討、導入を図る。

- ・入力データの統計情報や推移が簡単に出力（表またはグラフ）できる機能の搭載
- ・教職員及び児童生徒の名簿データ等の重複入力がないシステムの導入

○アクセス制御による対策（ゼロトラスト）整備

現行での校務支援システムの運用はネットワーク分離（3 層分離）による対策を講じた環境が前提となっているが、これは強固なセキュリティを担保できる一方、限定的な環境でのアクセス、ファイル中継の手間等により、教職員の負担となる部分があった。

これらを解消するため、どのようなネットワークからでもシステムが利用可能かつセキュリティを担保したアクセス制御による対策（ゼロトラスト）がなされた校務支援システム運用が実施できる環境整備を行う。

次期校務支援システムはゼロトラストでのアクセスが可能なシステム構成を想定しているため、それに対応したインフラ整備を実現していく。

○FAX・押印の原則廃止への取組

システム環境の構築だけでなく業務の見直しを行い、FAX や押印等の業務の縮小を図る。その際、条例や規則によりデジタル化に至っていない業務もあるため、併せて見直しや改正を行う。

○ペーパーレス化への取組

校務支援システムをはじめ、様々なツールが整備されている中、いまだ書面に頼っている業務が見られる。また、他団体からパンフレットやチラシの配布を要望され、その配布作業に時間を要し、本来児童生徒と向き合う時間を別作業に費やす現状も見られる。

これらの対策として電子化データによる配布とする運用や、クラウドサービスによるデータ保管・保存期限等をルール化し、運用方法を整備する。